

なお続くオレオレ詐欺の巧妙さ

～被害者の多くが「自分はだまされない」と思っていた～

ライフデザイン研究部 主任研究員 北村 安樹子

1. 特殊詐欺の種類

「特殊詐欺」という言葉を聞いて、物騒な印象とともに、その手口の悪質さを思い浮かべる人も多いだろう。特殊詐欺とは、「被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振込みその他の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪（現金等を脅し取る恐喝及びキャッシュカード詐欺盗を含む）の総称」とされる（注1）。

特殊詐欺には10種類の類型があるが、このうち「オレオレ詐欺」は、息子や孫などを電話で名乗り、仕事のトラブルや事故などを起こしたと言って親や祖父母などの被害者を動揺させ、現金をだまし取る手口で知られる（図表1）。2022年の認知件数は4千件を超え、被害額は129億円に達するなど（注2）、高齢者を中心に依然深刻な被害が続いている。

図表1 特殊詐欺の類型

名称	特色
① オレオレ詐欺	息子・孫などの親族やその上司、警察官、弁護士などを電話で名乗り、親族が起こした仕事のトラブルや事故などを理由に、現金をだまし取る(脅し取る)
② 預貯金詐欺	警察官や銀行協会職員などを名乗り、「あなたの口座が犯罪に利用されているのでキャッシュカードの交換手続きが必要」などと言ったり、役所の職員等を名乗り、「医療費などの過払い金があります。こちらで手続きをするのでカードを取りに行きます」などと言って、キャッシュカードやクレジットカード、預貯金通帳等をだまし取る(脅し取る)
③ 架空料金請求詐欺	有料サイト事業者や法務省、裁判所などの名称で「未払いの料金があります。支払わなければ裁判になります」などとメールやはがき(封書)で知らせ、金銭等をだまし取る(脅し取る)
④ 還付金詐欺	役所の職員等を電話で名乗り、医療費や税金、保険料などの還付金が受け取れるなどと言って、携帯電話で被害者にATMを操作させ、被害者の口座から犯人の口座に送金させる
⑤ 融資保証金詐欺	実際には融資をしないのに、簡単に融資が受けられると信じ込ませ、融資を申し込んできた人に対して、「保証金が必要です」などと言って金銭等をだまし取る(脅し取る)
⑥ 金融商品詐欺	価値が全くない未公開株や有価証券、高価な物品などについて嘘の情報を教えて、購入すれば利益が得られると信じ込ませ、その購入代金として金銭等をだまし取る
⑦ ギャンブル詐欺	「パチンコ打ち子募集」などと雑誌に掲載したり、メールを送りつけ、会員登録などを申し込んできた人から、登録料や情報料として金銭等をだまし取る(脅し取る)
⑧ 交際あっせん詐欺	「女性を紹介」などと雑誌に掲載したり、メールを送りつけ、女性の紹介などを申し込んできた人から、会員登録料金や保証金として金銭等をだまし取る(脅し取る)
⑨ その他の特殊詐欺	上記①～⑧に該当しない特殊詐欺
⑩ キャッシュカード詐欺盗(窃盗)	警察官や銀行協会、大手百貨店等の職員を名乗り、「キャッシュカードが不正に利用されているので使えないようにする」などと言って、隙を見てキャッシュカード等をすり替えて盗み取る

*1: 各種資料(注3)により当研究所で作成。

*2: 「②預貯金詐欺」は、従来「①オレオレ詐欺」に包含されていた犯行形態を2000年1月から新たな手口として分類。

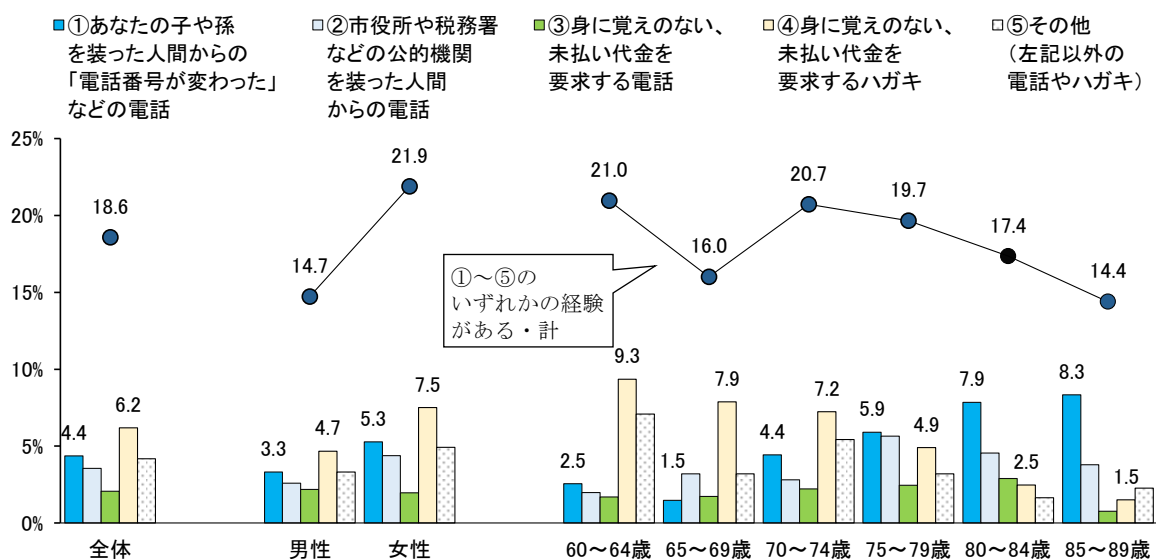
2.シニア世代における特殊詐欺被害の経験

では、実際にこのような詐欺の被害にあいそうになった人は、どの程度みられるのか。ここでは、オレオレ詐欺を含め、1年以内に電話やハガキによって行われた特殊詐欺の認知経験をたずねた調査の結果を確認してみよう。この調査では、過去1年間における電話やハガキによる特殊詐欺の経験として、「①あなたの子や孫を装った人間からの「電話番号が変わった」「鞆をなくした」などの電話」「②市役所や税務署などの公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話」「③身に覚えのない、未払い代金を要求する電話」「④身に覚えのない、未払い代金を要求するハガキ」「⑤その他」の計5つの経験について回答を求めている（複数回答、選択肢には他に「⑥そのような電話やハガキを受けとったことはない」がある）。

結果をみると、全体では①～⑤のいずれかの経験がある人は18.6%で、60歳以上の男女のおよそ5人に1人が、1年以内にこれらの経験があった。特殊詐欺は、シニア世代にとって思った以上に身近な犯罪だといえる（図表2）。

具体的な内容を見ると、もっとも多く挙げられたのは、いわゆる架空料金請求詐欺にあたる④の6.2%で、次いでいわゆるオレオレ詐欺の①が4.4%となっている。また、年代別に比較すると、オレオレ詐欺の経験者は高齢のほど多い傾向にある。

図表2 過去1年間における60歳以上男女の電話やハガキによる特殊詐欺の認知経験
(全体、性別、年代別) <複数回答>



*1: 設問文は、過去1年間に次のような詐欺の電話やハガキを受けとったことがありますか。この中からすべてお答えください。

*2: 90歳以上は回答者が少なく、無回答が多いため年齢別の結果には非掲載。

資料: 生命保険文化センター「ライフマネジメントに関する高齢者の意識調査」より作成。調査対象者は全国の60歳以上の男女2,083人。調査時期は2020年10～11月。

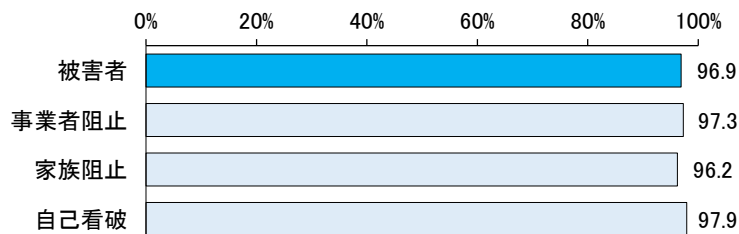
なお、この調査によると、1年以内に①～③の電話を受けた経験がある人の8割近くは、電話で相手と話している時に詐欺だと気づいたと答えている（図表省略）。残りの1割強は、電話で相手と話している時は詐欺だと気がつかなかったが、被害にはあわなかった人が大半で、詐欺であることに最後まで気がつかずに被害にあってしまった人は回答者全体の0.5%であった。

3.オレオレ詐欺被害者のほとんどは、手口を知っていて被害にあわないと考えていた

一方、実際の被害者を対象に行われた警察庁の調査によると、オレオレ詐欺の被害者のほとんどは、事業者や家族、あるいは自分自身で見破るなどして被害にあわなかった人と同じように、詐欺の手口について知っていたと答えている（図表3）。また、オレオレ詐欺の被害者の8割近くは「自分は被害にあわないと思っていた」と答えており、「どちらかといえば自分は被害にあわないと思っていた」人を含めれば、95%を超える（図表4左）。

その理由（図表4右）には、「だまされない自信があったから（家族の声やうそを見分けられる自信があった）」（57.0%）、「自分には関係のないことだと思っていたから」（38.9%）、「詐欺の手口を詳しく知っていたから」（27.6%）などがあげられている。自身の判断力に自信をもっていたり、犯行の手口を知っていると思っけていても、被害者になってしまう場合があることがうかがえる。

図表3 オレオレ詐欺のだましの電話やメールを受ける前に、手口を知っていたと答えた人の割合



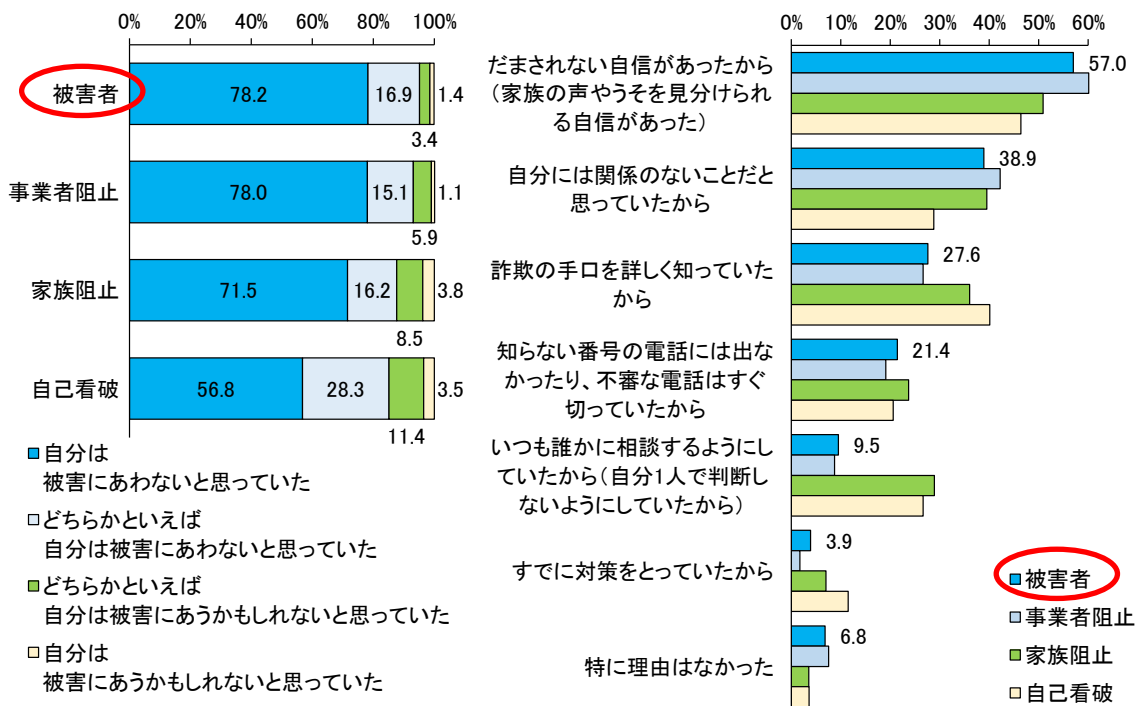
*1: 設問文は、「現在、さまざまな手口の特殊詐欺が現れています。今回、だましの電話やメールなどを受ける前に、あなたが知っていたものをこの中からいくつかもあげてください」。

*2: 調査対象は、親族をかたるオレオレ詐欺の既遂被害者354人（被害者）、親族をかたるオレオレ詐欺の電話等によってだまされたものの、金融機関職員、配送業者、コンビニエンスストア店員等の声掛けによって被害にあわなかった187人（事業者阻止）、親族をかたるオレオレ詐欺の電話等によってだまされたものの、家族・親族が見破り被害にあわなかった130人（家族阻止）、親族をかたるオレオレ詐欺の電話等を受けたものの、自ら看破した428人（自己看破）。調査期間は2018年8月～11月。

*3: 被害者の年齢は65歳以上が9割超、性別は男性が16.4%、女性が83.6%。

資料: 警察庁「オレオレ詐欺被害者等調査の概要について(平成30年)」より作成。

図表4 オレオレ詐欺被害に対する意識(左)と、
自分は被害にあわないと思っていた理由(右)〈複数回答〉



*1: 設問文は、各々「今回、だましの電話やメールなどを受ける前に、あなたは特殊詐欺の被害にあう可能性についてどう思っていましたか」。「そのように思った理由をこの中からいくつでもお選びください」。

*2: 右図の回答者は左図で「自分は被害にあわないと思っていた」「どちらかといえば自分は被害にあわないと思っていた」と答えた人。

*3: 調査対象、資料は図表3に同じ。

4.なお続くオレオレ詐欺の巧妙さ～手口を知っていて、だまされないと思っても～

このように、60歳以上で1年以内に特殊詐欺の可能性のある電話やハガキを受けた経験がある人は、5人に1人いた。中でもオレオレ詐欺の電話に関しては、高齢のほど経験者が多い傾向がみられた。

オレオレ詐欺の場合、家族が事件・事故に巻き込まれたというショッキングな出来事を聞いて気が動転しているなか、「すぐに振り込まないと大変なことになる」などとせかされて行動を迫られる。犯行の手口を知っていて、だまされないと思っても、通常であれば気がつく違和感に気づかなかったり、確認の連絡を行えなかったり、自分が助けるしかないと思いつめる状況に追い込まれてしまうのだろう。

オレオレ詐欺を含め特殊詐欺の被害は、今もなお、高齢者を中心に深刻な状況が続いている。対策として、在宅時も留守番電話を設定したり、ナンバーディスプレイ機能などを利用して、知らない番号からの電話に出ないことが呼びかけられている。ただ、高齢者のなかには、それらのシンプルな機能の利用にも複雑さを感じる人や、対

策をとることに消極的な人もいる。自分が被害にあうことなどないと思っている高齢者は多いだろうが、電話などの通信手段の使い方や特殊詐欺の怖さについて、家族や信頼できる身近な人とあらためて話す機会をもつことも大切ではないか。

【注釈】

- 1) 警察庁「令和5年度警察白書」。
- 2) 警察庁「令和4年における特殊詐欺の認知・検挙状況等について（確定値版）」。
- 3) 警察庁「令和2年における特殊詐欺の認知・検挙状況等について（確定値版）」、警察庁「オレオレ詐欺被害者等調査概要について（平成30年）」、法務省「令和4年版犯罪白書」、金融広報中央委員会「「私は大丈夫」が一番危ない！巧妙化する特殊詐欺の手口と防止策」「くらし塾 きんゆう塾」vol.58 2021年秋号、2021年10月などを参照。

【参考文献・資料】

- 1) 第一生命経済研究所「「幸せ」視点のライフデザイン」東洋経済新報社、2021年10月。
- 2) 第一生命経済研究所「人生100年時代の「幸せ戦略」」東洋経済新報社、2019年11月。
- 3) 宮木由貴子「数字で示される「オレオレ詐欺で母親が狙われる理由」」、マネーフォワード「MONEY PLUS 人生100年時代のライフデザイン」、2019年10月。
- 4) 金融広報中央委員会「「私は大丈夫」が一番危ない！巧妙化する特殊詐欺の手口と防止策」「くらし塾 きんゆう塾」Vol.58 2021年秋号、2021年10月。